

(公財) 諏訪郷友会 令和1年度事業報告

事業の状況

<公益事業>

1 学生寮「長善館」の運営

4月	新入館生8名で、R1年度期首の在館生は34名。1名が直ぐ退館し33名に。
5～9月	追加募集で都内13大学へポスター掲示、9月中途退館生1名。
9～12月	R2年度募集要項が決まり、理事が県内5地区での公私立高校・予備校に募集活動を展開。
12～3月	面接選考7回実施し募集枠14名が内定。3月卒館生6名、2月中途入館生1名。
2～3月	R2年度期首は定員41名となったが、コロナ感染防止のため実家待機の新生児が数名いる。

2 館生と維持会員の研修交流のための会議等の開催

6月 2月	「長善館オープンセミナー」第50回、51回を開催。 6月「惑星系形成論とはやぶさ2」（石城陽太氏）、2月「平成の皇室、令和の皇室」（大久保和夫氏）
8月	「夏季郷里大会及び長善館同窓会」を開催。（於：「ゆうむ25」）参加者は会員及び館生保護者ら42名・館生4名。小口良平氏による講演会「夢を叶える方法 ～8年半、157ヵ国、世界4周自転車旅で感じたふるさとの美しさ」を実施。聴講者は約50名。
10月	「秋季大会」と館生主催の「長善館記念祭」を合同開催した。 参加者は会員及び館生保護者ら26名・館生約30名。

3 会報等の発行

8月	「諏訪郷友会ニュース 2019年夏・復刊第35号」刊行。
3月	「諏訪郷友会ニュース 2020年冬・復刊第36号」刊行。

<収益事業>

1 長善館駐車場の経営

7年連続で700万円超えて推移し、当年度も高利用率を維持し744万円となった。

2 太陽光発電による売電

事業開始6年目。当年度売電高104万円、月平均約9万円弱とほぼ安定的に推移。

<法人運営>

収支面では、

- ・合計でマイナス99万円と前年のマイナス92万円に引き続き厳しい結果となった。
- ・これは、寮費と育英事業協力金（対予算86万円減）の収入減と、支出面では、風呂用シンクロヒーター缶体交換99万円、植栽剪定136万円、非常用備蓄食料39万円と予定外の高額出費、そして館生募集勧誘活動の交通費増などがあり大きく収支が落ち込んだ。
- ・急遽運転資金確保のため、駐車場修繕積立資産300万円の取崩しと信用金庫返済金繰越し345万円を追加投入して切り抜けた。
- ・翌年度は、寮室満室となったため収支の改善を期待する。

運営面では、

- ・東京都立入検査で指摘された改善内容は、改善が進みほぼ適正状態と思われる。
- ・前年度途中退館者の、主原因と思われる館生記念祭の内容を見直し、長持指導を実施した。
- ・館生確保の募集勧誘活動として、初めて主要高校・予備校を周り応募者増につながった。
- ・管理人の体調不良継続で業務不足が発生し、館内清掃をシルバー人材に委託開始した。
- ・協力金への情宣活動が不十分と思われ、実績314万円と目標額400万円を大きく下回った。